

令和 2 年度使用

小学校用教科用図書研究資料

国 語

宮崎県教育委員会

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 単元の構成に関しては、「つかむ」「取り組む」「ふり返る」の3段階に分けて構成されるとともに、各単元の始めや終わりに育成すべき力を示した「言葉の力」を設け、「言葉の力」を確実に育成できるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、4月を学習の基盤作りの期間として重視し、上巻頭に対話の仕方や情報の扱い方、図書館活用の仕方等を配置することで、一年間を通じて活用したい基礎的・基本的な事項を年度当初に指導できる工夫が見られる。</p>
11 学 図	<p>(1) 単元の構成に関しては、めあてを確認する、取り組む、振り返るという3段階で構成されるとともに、見通しをもって学習に取り組ませたり、振り返りの観点を示すことで次の学びにつなげさせたりするような工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、3年以上の上巻に「論理的思考力」、下巻に「感性的思考力」を育てる教材を配置することで、情報の整理の仕方等を演習を通して体感的に理解させ、他領域や他教科の学習で活用できる力を育てる工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 単元の構成に関しては、単元の目標に合わせた学習過程が明示されるとともに、単元末の「ここが大事」で学習のポイントや学習用語が示されており、内容の理解と定着が促されるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、一つの領域を集中して学習する「基本単元」と複数の領域を関連させながら学習する「関連単元」とをバランスよく配列することで、一年間の中で指導の重点化や効率化を図る工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) 単元の構成に関しては、単元の目標に合わせた4段階の学習過程が明示されるとともに、単元末の「たいせつ」「いかそう」で学習のポイントや他単元・他教科とのつながりが示され、児童の学習意欲を喚起するような工夫が見られる。</p> <p>(2) 単元の配列については、「読むこと」と「書くこと」等、領域を関連させて構成したり、短い説明文の「練習」教材の学習後に長い説明文教材を配置したりすることで、身に付けた力を次の学習に生かして指導できる工夫が見られる。</p>

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各学年の最初に対話的な学びの基礎・基本となる「話すこと・聞くこと」の小単元を設け、年間を通して対話的な学びが意識できるようにしている。また、各単元に導入ページを設け既習事項を想起させる等、主体的な学習を進められる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「ことばあつめ」「言葉の広場」を設け、語彙を広げたり生活の中で活用させたりできるようにしている。また、当該学年の教材文と関連させながら、つまずきやすい事項について習得を確かにする練習教材を設け、定着・習熟を図る工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各単元冒頭のページに、児童に学びの自覚を促す「つかむ」及び育成すべき力を示した「言葉の力」を明記し、単元末で振り返りの観点を示した「ふりかえる」及び「言葉の力」を提示している。また、各単元末の「てびき」で単元全体の中心となる「単元の問い」を設け、児童の学びを深めることができるような工夫が見られる。</p>
11 学 図	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、読む単元の最後に話し合う活動を設け、対話を通して読みを深められるようにしている。また、3年以上の目次の後に、当該学年で身に付けたい力とそのために必要なことを明示し、見通しをもたせることで、主体的な学習を進められる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、言葉の特徴や由来に着目させる「言葉のいずみ」を設定し、児童の言葉に対する知的好奇心を高めている。また、前学年の既習漢字を使った言葉をつないで文をつくる練習教材を各学年に設け、定着・習熟を図る工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、4年以上の説明文教材で、同じ題材について書かれた複数の文章の構造や表現を比べて読む「比べ読み教材」を設定している。また、3年以上に情報の扱い方を演習させるための「論理的思考力教材」と「感性的思考力教材」を系統立てて設定し、各領域の学習や他教科等に生かすことができるような工夫が見られる。</p>

17 教 出	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、単元末の「てびき」の中に、想定される児童の発言例を示し、対話的な学びが図られるようにしている。また、「てびき」の中のキャラクターが、読み進める方法等の具体的な学びの観点を示しており、主体的な学習を進められる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「言葉を学ぼう」「言葉をふやそう」のページを設け、発達の段階に即した語句が重点的に指導できるようにしている。また、どのような場面でその言葉を使うのかが分かる例を多く示し、実生活に生かせるような語彙指導の工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各単元末の「てびき」で、他教材でも活用できる汎用性のある学習のポイントをまとめた「ここが大事」を設定している。また、「読むこと」単元の「てびき」では4ステップ構造の学習過程を示して、学ぶ内容や展開が分かるようにするとともに、読みの観点を示して「言葉による見方・考え方」を働かせるための工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、場面に応じた話合いの仕方がイラストと話例で示され、対話的な学びが図られるようにしている。また、各単元の最初の「単元扉」で、作品への期待感を高めるとともに、読みの着眼点を示すことで主体的な学習を進められる工夫が見られる。</p> <p>(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、巻末「ことばの宝箱」で「考えや気持ちを伝える言葉・学習に用いる言葉」を提示したり、「季節の言葉」を重点的に取り上げたりして語彙を広げている。また、「情報の扱い方に関する事項」に焦点を当て、単元と関連させる工夫が見られる。</p> <p>(3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、単元末の「学習」ページに、育成すべき力や手順、学びのポイント等を示した「たいせつ」及び、他教科や生活に生かす場面を示した「いかそう」を設定している。また、3年以上の1学期説明文教材では、児童に文章の構造を学ばせる見開き完結の「練習教材」を単元冒頭に設け、児童の学びの定着を効果的に図るための工夫が見られる。</p>

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、児童にとって定着が難しい内容を身に付けさせることができるように、練習教材が配置されており、デジタルコンテンツを活用してさらに習熟を図ることができる工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとっての分かりやすさについては、新出漢字を欄外で四角囲みにし、文字のサイズを大きくすることで、漢字を際立たせて印象に残す工夫が見られる。</p>
11 学 図	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、適宜デジタルコンテンツを活用させることができるように、QRコードが単元内に掲載してあり、1年の発音指導においては、動画により効果的な口形指導ができる工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとっての分かりやすさについては、本文中の新出漢字には単語の単位ごとにルビを振ることで、読みの負担を軽減する工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、児童の学びを広げることができるように、作者等の経歴や他の著作物、教科書に掲載されている以外の古典等の発展的内容をデジタルコンテンツを活用して調べさせる工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとっての分かりやすさについては、1年、2年の新出漢字の書き順について欄外に示すことで、発達の段階に配慮した工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) 学習効果や使用上の利便性については、デジタルコンテンツを活用させることができるように、QRコードが単元内に掲載してあり、教材に関連する資料や人物等を調べさせたり、映像によって理解を深めさせたりする工夫が見られる。</p> <p>(2) 児童にとっての分かりやすさについては、新出漢字を本文下の欄外だけではなく、単元の最後にもまとめて示すことで、振り返りをしやすくする工夫が見られる。</p>

【データの観点】

種目 国語

※ 表内の数値は、国語で設定した内容項目により全発行者について調査したものであり、数値の大小を表面的にとらえるのではなく、具体的な内容と合わせて各発行者の特徴をとらえる参考とすること。

視点		発行者	2	11	17	38	
			東 書	学 図	教 出	光 村	
共通	①総ページ	上	174	158	160	156	
		下	172	148	160	156	
	②重さ	別冊(g) 3年上	290	294	284	314	
	③サイズ	縦(cm)×横(cm)	25.7×18.2	25.7×18.2	25.7×18.2	25.7×18.2	
種目別	④単元数		16	12	13	8	
	⑤1ページの標準字数		252	292	290	247	
	⑥資料	写真	上	39	25	20	20
			下	17	21	20	19
		図表	22	13	16	14	
		絵	30・35	32・31	38・33	30・32	
	⑦読書に関する教材数		15	12	13	13	
	⑧デジタルコンテンツ		言語 14 視聴覚 2	学習補助用 ワークシート4	学習補助用 ワークシート13 言語2 視聴覚2 リンク2	視聴覚17 リンク1	
	⑨言葉の特徴や使い方 (題材数)		17	17	18	18	
	⑩情報の扱い方 (題材数)		2	4	5	6	
	⑪我が国の言語文化 (題材数)		2	2	2	3	
⑫話す・聞くこと (題材数)		5	6	6	7		
⑬書くこと (題材数)		7	7	7	5		
⑭読むこと (題材数)		11	7	8	9		

※ 調査対象は、各発行者の3年生の教科書

※ ①総ページ数は、口絵や折り込みのページも含めた全体のページ数

※ ④単元数は、大単元の数

※ ⑤標準文字数は、最初に出てくる文学的文章で文字数の最も多いページを数えたもの

※ ⑥資料等の数(写真)の数は、本の紹介に使用されているものは除く

※ ⑥資料等の数(図表)の数は、吹き出しやキャラクターの数は除く